

日本年金数理人会 平成29年度実務研修会資料

# 大学教育への取組状況について

大学教育推進委員会  
委員長 枇杷 高志

# 本日のアジェンダ

1. 大学教育への取組状況
2. 講義内容
3. 今後の取組

# 1. 大学教育への取組状況①

- 2001年 数理人会に大学院教育推進特別委員会を設置
- 2002年 大阪大学(基礎工学)と早稲田大学(商)で寄付講義を開始
- 2003年 「年金数理概論」を刊行
- 2008年 「年金数理教育に関する情報連絡会」を実施
- 2012年 「新版 年金数理概論」を刊行
- 2013年 「新版 年金数理概論(第2刷)」を刊行
- 2013年 大学講義受講者の「その後」に関する調査を実施
- 2015年 常任委員会に移行し「大学教育推進委員会」に

# 1. 大学教育への取組状況②

2017年度の講義実施先は以下の通り(50音順)

大学名(カッコ内は 主な専攻)	開始 年度	寄付	学生 数	講師(敬称略)	特記事項
大阪大学(数理・ データ科学教育研 究センター)	2002	なし	約20	畑満／小西陽／ 小松一志	
慶應義塾大学(理 工学研究科)	2008	なし	30弱	久保知行 / 横田 克也 / 井戸照喜	理工学部4年も 受講可
東京理科大学(理 学研究科)	2004	なし	30弱	藤井康行／堀田 晃裕	
東北大学(理学研 究科)	2015	あり	約10	畑満／稲垣誠一 ／加藤貴士	当期で寄付は 終了
名古屋大学(多元 数理科学研究科)	2010	なし	約20	坪野剛司／渡部 善平／清水信広	
早稲田大学(理工 学術院)	2007	なし	30弱	武藤憲真／井上 修二／枇杷高志	会計研究科か らの受講あり

## 2. 講義の内容①

年金数理や周辺知識の概要をカバーした、**啓発目的**の講義

東北大学の事例

回	講義名	講義概要
1	わが国の年金制度(1)	公的年金制度の沿革に触れながら公的年金の本質、公的年金の財政再計算・数理の本質を説明
2	わが国の年金制度(2)	公的年金制度を中心に日本の年金制度の枠組みを紹介するとともに、公的年金の課題を説明
3	企業年金制度(1)	企業年金制度の沿革、退職金との関係、企業経営との関係を概説
4	企業年金制度(2)	企業年金各制度の基本的構造と今後の課題を概説
5	年金数理概論	年金数理の目的や基本的な構造について概説
6	計算基礎率と年金現価	年金数理計算において将来予測の前提となる計算基礎率の算定を中心に説明
7	年金財政論(1)	長期的に安定した財政運営を図るために立てられる財政計画の一般論
8	年金財政論(2)	現実の企業年金でよく用いられている財政方式を題材に、財政計画の理解を深める

## 2. 講義の内容②

### 東北大学の事例(続き)

回	講義名	講義概要
9	演習	これまで行った講義の内容について演習を行う
10	財政計算	制度発足時の財政計画や、制度発足後に発生した「ずれ」の軌道修正のために行われる「財政計算」について説明
11	財政検証	事前に立てた計画と現実が相違することが一般的であり、そのずれを検証する「財政検証」の目的と方法について説明
12	退職給付債務	企業の退職金準備状況を適切に表示する目的で導入された退職給付債務について、一般の年金数理と比較しながら説明
13	企業年金の資産運用	投資理論の基礎を前提知識とし確認した上で、企業年金の資産運用の特徴等を説明
14	年金ALM	年金ALM(Asset Liability Management)の目的、全体像(アウトプットサンプル)、年金ALMの活用方法などについて説明
15	年金運用の最近の動向	「年金ALMの新潮流」、「政策アセットミックス構築と実際の運用」及び「運用手法の多様化」というテーマで、年金運用を取り巻く最近の動向や実態について説明

# 3. 今後の取り組み

## ・大学教育の継続実施と改善

学生や大学のニーズ(=公益)等も踏まえて検討  
講師の確保・世代交代も重要

## ・新たな講義先のサーチ

主な大学はある程度網羅されているが、機会があれば検討

- ・本件活動や講師にご興味のある方
- ・講義のニーズがある大学をご存知の方 などなど

お気軽にご連絡下さい！

有限責任あずさ監査法人 枇杷 高志

[takashi.biwa@jp.kpmg.com](mailto:takashi.biwa@jp.kpmg.com)

- ご静聴ありがとうございました。